

全国特別支援学級・通級指導教室設置校長協会 第60回全国研究協議会愛知大会 報告

令和5年8月3日、全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会第60回全国研究協議会愛知大会を、蒲郡市民会館において、4年ぶりに対面での開催をしました。また、大会の一部（開会行事・記念講演）については、オンラインでの配信する方法を取り入れ、より多くの方々に情報を提供することができました。

全国理事の皆様及び全国各地からご参加いただきました校長先生方のおかげで、無事に愛知大会を終えることができました。心より感謝申し上げます。

<開会行事>

主催者挨拶	全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会 会長 第60回 全国研究協議会愛知大会 実行委員長	大関 浩仁 様 半田 憲生
来賓祝辞	文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課 課長 愛知県教育委員会 教育長代理 特別支援教育課 課長補佐 蒲郡市 副市長	石田 善顕 様 福井有希子 様 大原 義文 様
その他来賓	文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 蒲郡市教育委員会 教育長 愛知県小中学校長会 会長	加藤 典子 様 滑川 典宏 様 壁谷 幹朗 様 都築 孝明 様

※開会行事では、心温まる歓迎の言葉と、蒲郡市と特別支援教育との歴史的なかかわりの深さ等の紹介などが行われ、参加者も改めて意識を高めることができた。

※特別支援教育課石田課長の行政説明では、短い時間に、通常の学級での特別支援教育的な支援の必要な児童・生徒数の増加に触れるなど、今、学校の教育活動にとって、特別支援教育がいかに大切になってきているかを、示していただき、たいへん勉強になった。

<講演>

「みんなが一緒」をやめて 周囲を巻き込む 一発達障害の理解と支援
愛知県医療療育総合センター中央病院 子どものこころ科（児童精神科）
部長 吉川 徹 様



《講演内容抜粋》

1 発達障害とは

- | | | |
|---------------|---|----------------------|
| (1) 自閉症スペクトラム | } | ・発達障害の特徴と通常の発達との違い。 |
| (2) ADHD | | ・社会生活に必要な行動の身に付けづらさ。 |
| (3) 学習障害 | | ・発達障害の特性に基づいた指導の必要性。 |

2 支援の原理

(1) 動機への支援が大切

○動機の不足を補うために、大人がやってしまう危険な方法①②③ →こじれのリスクとなる

①強制・罰 ②ルーティン ③自ら課したルール、理念

○課題を観点によって分類する →☒に取り組む

- | | | | |
|------------|---------|--|----------|
| ①「難しさ」で分類 | ア 一人できる | <input checked="" type="checkbox"/> 手助けがあればできる | ウ できない |
| ②「やりがい」で分類 | ア やりたい | <input checked="" type="checkbox"/> 応援やご褒美があればやりたい | ウ やりたくない |
| ③「疲労度」で分類 | ア 楽々できる | <input checked="" type="checkbox"/> できるけど疲れる | ウ できない |

○「できること」より、「やりたくなること」を目指す

- ・歯磨きができる⇔歯磨きがしたい ・絵が描ける⇔絵が描きたい ・完成できる⇔挑戦したい
→「できたら褒めましょう」は× →できたときの報酬は、本人の達成感・満足感で事足りる

- ・「大人は完成や達成、勝利に関心がある」と子どもが勘違いすると、こじれが生じる。
- ・大人は「挑戦と失敗が大好き」であるふりをする。取り掛かり始めたら、応援する。

○発達障害のある子に「教える」のは難しい → したいこと①「手伝う、代行する」、②「安全を守る」

①発達障害のある子を「手伝う、代行する」

- ・できないことを手伝う、代行する。(片付け、登校準備…)
- ・コミュニケーションを代行する。(所持品確認、かわりに謝る…)

②発達障害のある子の「安全を守る」 → 大人の見守りが必要

- ・これをしたら何がおこるか、想像しにくい。 ・ 何かに興味をもつと、他事が目に入らなくなる。
- ・大事な情報が「自動的に」入ってこない。

(2) 人手の集め方

○校内では、「仮」に理解して、「実際に」支援する

→ 診断とニーズには、ずれがあることも → 現場でよく見ることが大切

○「仮」の理解と支援の実績をもって、保護者との相談を始める

○子どもを巻き込む → 大人の理解が他の子に伝わる。(関わり方を示す。具体的な支援方法を伝える。)

(3) 「みんなが一緒」をやめる

○「みんなが一緒」がよいことだ、当たり前だという価値観を打ち出すと、教師は苦しくなる。

○先生が「みんな一緒」を喜んでいないことを空気で示す。きちんと「特別扱い」をする。

(例) じっとしているのが苦手な子には「黒板消し係」に任命して、授業中に黒板を消す機会をつくる。
書字の苦手な子には、デジカメで黒板の写真を撮ってもらう。

※講演では、吉川徹先生から、発達障害のある児童・生徒をどう見るか、その支援をどう展開するかについて、具体的に説明していただいた。一人一人に合った支援を展開するためには、時として、学校の常識である「みんな一緒」の意識が邪魔になることもあるため、「みんな違って、みんなよい」の考え方でいきたいことなどをお話していただいた。目から鱗が落ちるようなお話であった。

<分科会>

第1分科会 特別支援教育の校内体制の充実を目指す学校経営

○岐阜県高山市立東小学校長 佐藤 義晃 ○名古屋市立堀田小学校長 中村麻美

第2分科会 特別支援教育の推進を担う教職員の育成を図る学校経営

○石川県白山市立千代野小学校長 中川 学 ○東栄町立東栄中学校長 夏目 貴司

第3分科会 関係機関との連携を進め特別支援教育の充実を図る学校経営

○静岡県富士市立今泉小学校長 荊沢 孝之 ○小牧市立篠岡中学校長 福嶋 淳代

※午後の分科会では、グループでの話し合いや意見交流の場で、校長として大変に感じていることや工夫していることを、顔と顔を合わせて話すことができた。直接、話し合う機会がもてたことへの満足感が高かった。

<大会参加者アンケートより>

○大会運営について

- ・1会場ですべての会議を開催していただいたので、同県のメンバーが参集しやすく、よかったです。
- ・参集型にさせていただいたおかげで、他県の方とも出会うことができ、交流もできてよかったです。
- ・準備や運営は大変だと思いますが、今後もオンライン併用のハイブリッド型の研究大会継続を希望します。
- ・できることなら二日間開催できればと感じた。講演も全体会も分科会も、もっと生きてくると思う。

○記念講演・分科会について

- ・吉川徹先生のご講演が大変良かった。たくさんのことを学ばせていただきました。資料のデータもお送りいただきましたので、有効に活用させていただきたいと思います。
- ・分科会は、自由に意見交換できる雰囲気がよかったです。他県の状況がよく分かり、勉強になりました。
- ・学びの多い大会でした。講演はもっと聞きたかったし、分科会も沢山の方と意見を交わしたかったです。
- ・初めて参加したが、大変学びの多い大会でした。講演も、もっとお聞きしたかったし、分科会も沢山の方と意見を交わしたかったです。